

日刊 動労千葉

1988.8.9 No. 2870

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二七二〇七

河野 長課務車 先導の松崎

居直り続ける松崎の先導車務課長河野

「脱退強要事件」第二回調査開かれる 〇月1日 千葉地労委

千葉駅前河野糾弾の声とどろく
八月一日、千葉地方労働委員会において、河野らによる動労千葉脱退強要事件の第二回調査がおこなわれた。

十六時半からの調査に先だって、反動職制河野を弾劾する千葉駅頭での街宣行動が展開された。「JR幹部でありながら、革マル松崎と結託し、違法な組合潰しを続ける河野は謝罪せよ！」駅頭の宣伝カーからJR千葉支社に対して、この間の理不尽な攻撃に対し、徹底的な弾劾の声がたたきつけられた。

逃げまわるヒレツな河野

かつては、あらゆる場に出し、直接組合弾圧の指揮をとった河野は、地労委に、不当労働行為の張本人として訴えられて以来、われわれの前から逃げまわり、全く姿を現わさない。しかし、卑劣河野は、陰に隠れて、全く違法な組合潰しを続けているのだ。

津田沼支部に対する全く異常極まりない支部破壊攻撃をはじめ、新習志野派出、幕張、千葉車掌区等に対する様々な組合潰しの主謀者が河野であることは明らかである。

街宣隊は、反省するどころか居直り続ける河野への怒りをこめて、地労委闘争勝利へ向けた駅頭街宣を貫徹した。

河野こそ脱退強要の下手人

また、JR当局は、この日の第二回調査に先だって「準備書面(1)」を提出した。しかし、その内容たるや、われわれが、社長住田とともに河野を被申立人として訴えていることに対し、「河野は被申立人として適格でない。被申立人からはずしてくれ」というのがほとんど唯一の内容という代物である。不当労働行為をやっていないというのなら、正々堂々と争えばいいではないか。地労委の場からもコンコンと逃げまわりとうとうこのこにも河野の卑劣な姿が鮮明に浮き上ってくるようである。

当面するスケジュール

- 8月19日 青年部活動者集会
- 8月21日 オ2回家族会連続講座
- 8月27日 動労千葉労働学校
- 8月29日 清原事業集団・日鉄法公判
- 8月30日 中野公判
- 9月2日 映画「激」上映会
- 9/11 国鉄労働者集会
- 10/2、3 動労千葉定期大会

次回から本格的攻防に

動労千葉及び弁護団は、この日、この間の不当労働行為、動労千葉敵視政策を明らかにする書証を提出、証人の申請をおこなった。

次回からは、いよいよ証人審問が開始され、「動労千葉脱退強要事件」も本格的な攻防に入る。次回の開催期日は、十月四日。地労委闘争の強化をかちとり、JRの不当労働行為を暴き出そう！

開き直る河野らに ストライキで反撃を！

総括集会では、現在もお鉄道労連革マルと反動職制が一体となった組織破壊攻撃の嵐が吹き荒れていること、そして、このような攻撃が続くならば、われわれは、運転でのストライキを含め、長期波状ストライキを断固として再開する決意であることを確認し、地労委闘争を終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！